

通信講座アットホームスタディ「宅建」提供
平成 29 年度宅建試験解答速報

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3	4	3	2	4	3	3	2	3	1
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
2	4	2	3	4	1	2	4	1	4
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
4	1	1	3	3	1	1	4	4	1
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
4	1	2	3	3	4	3	2	2	3
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
2	4	1	4	2	3	4	2	4	1

■平成 29 年度の宅地建物取引主任者資格試験は、以下の通り実施されました。

分類	問題数
土地の形質、地積、地目及び種別並びに建物の形質、構造及び種別に関すること。	2
土地及び建物についての権利及び権利の変動に関する法令に関すること。	14
土地及び建物についての法令上の制限に関すること。	8
宅地及び建物についての税に関する法令に関すること。	2
宅地及び建物の需給に関する法令及び実務に関すること。	3
宅地及び建物の価格の評定に関すること。	1
宅地建物取引業法及び同法の関係法令に関すること。	20
合計	50

【コメント】

1. 総評

権利関係は昨年より難しい問題も多く、宅建業法も個数問題が昨年の 5 問から 6 問に増えたことから、全体的に難化傾向となりました。

なお、法令上の制限と 5 点免除科目（問 46～問 50）は例年並みの難易度でした。

2. 分野別講評

（1）権利関係

民法は、連帯債務の単独問題、請負の単独問題、相続の問題が 2 問出題（通常 1 問）されるなど、出題分野に偏りがあり、例年より得点するのが難しくなった印象を受けました。借地借家法、区分所有法、不動産登記法は、これまで出題されたことのない分野からの出題もあり、やや難化したと思われます。

（2）法令上の制限

国土利用計画法が選択肢の 1 つとして出題されたり、問題の順番に変更があったりなど、多少の変更はあったものの、過去問頻出の問題が多く、比較的得点しやすかったと思われます。

(3) 宅建業法

個数問題が昨年の5問から6問に増えたことから、昨年より難化し、より正確な知識が必要となりました。

(4) 税・その他

所得税の問題はごく稀にしか出題されない分野からの出題であり、難しい問題となりましたが、固定資産税と地価公示法の問題は過去問頻出のため、得点しやすい問題だったと思われます。

なお、5点免除科目は例年並みの難易度でした。

(注意) この解答速報に掲載した解答は、アットホーム(株)が独自に作成したものですので、実際の正解とは異なる場合があります。したがって、この解答速報によって引き起こされた損害等につきましては、弊社は一切の責を負いかねます。

解答内容・合格予想点に関するご質問には、一切お答えしかねますのでご了承ください。

アットホーム(株) アットホームスタディ事務局
TEL . 03 - 3580 - 7051
FAX . 03 - 3580 - 7060
受付時間 9:00~17:00 [土、日、祝日、特定日を除く]